

県立病院ではたらく仲間をつなぐ 病院組合ニュース

2023. 7. 6

No.157

愛知県病院事業庁職員組合
〒460-0001 名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎内
電話(052)212-8031 FAX(フーアケス)0120-930-340
メールアドレス byoin@aichikenshoku.gr.jp
発行責任者 安田 将 吾

(1面からの続き)

吉田分会長
(がんセンター)



新型コロナウイルスが5類に移行しましたが、いまだコロナの患者さんがでています。インフルエンザも流行しており、単発的ですが病棟閉鎖になったりしている状況です。引き続きこのようなコロナなどの感染症に対して、PPEを着用して対応するスタッフにはなにかしらの手当の新設を進めていきたいなと思っています。

約束から変化している部分があり今後、看護部と交渉し書面で現状について確認をした上でたくさんある勤務帯をそれぞれ一括して承認していきたいと考えております。

安藤分会長
(小児センター)



パラメディカルの部門でいいますと、臨床工学技士さんに関しては実質当直の当番をしています。その当直体制については休暇等も含め制度を書面で確認し、あいまいな部分を話し合っていきたいと思っております。

また、これから他の分会にも話があると思いますが、当直師長が長日勤することによって今の当直前の時間外体制を変えていこうという動きがありますので、それについても他の分会とも話し合いながら承認するかどうか相談していきたいと考えております。

小児センターでは病棟スタッフルームの修繕を数年前から職場改善要求をしており、所属の安全衛生委員会の職場巡視においても改善項目として上がっていました。

今年1病棟ではありますが、修繕されることになりました。残りの病棟についても今後の予算の関係で1病棟ずつしかできないということでしたが、1年に1病棟ずつ修繕することになると聞いています。

ペットのフローリング化などの要求を取りまとめ安全衛生委員会の巡視チェック項目としてあげてもらおう予定です。駐車場の増設などの要求とも合わせて、職場要求アンケートから出た問題や要求を分会委員会で協議し、所属にしっかりと要求していきたいと思っております。



第33回中央委員会開催

6月23日、アイリス愛知において、第33回中央委員会を開催しました。
(中央委員定数23名のうち、出席20名、委任状提出3名、欠席0名)
中央委員会では、初めに一般経過報告を行い、次に当面の取り組みについて議案提案し、質疑なく、賛成多数で承認、可欠されました。また分会から現状報告がありました。

委員長あいさつ



安田委員長

本日は梅雨の晴れ間の蒸し暑く、またお忙しい中、病院組合第33回中央委員会にご参集いただき心より感謝申し上げます。5月8日以降、新型コロナウイルスが5類に移行され約2か月がたち、発症数において第9波といえるような大きなピークはみられませんが、ゆるやかな増加が継続しているように感じられます。この後、第1号議案の当面の取り組みにおいて、私たちをとりまく生活や医療の情勢、そして組合運動の基本的課題と取り組みについて提案しますので、皆様の活発な討議をよろしく願います。

各分会報告

岡田分会書記長
(精神医療センター)

先日、ワーカーさんの夜勤開始を内部からの情報で知るといふ事がありました。

突然の夜勤や長時間労働、さらに夜間の休憩や仮眠室などについて何も決まっていない状態で、全く組合を通じて命令がきたので、そのことについて職側に説明をしてもらい交渉をしました。今後も交渉を続け、組合員が不利益な勤務にならないようにしていきたいと思っております。

6月23日、アイリス愛知にて県職連合第33回中央委員会が開催されました。病院組合からは、10名の中央委員の出席と1名の委任状提出があり(定員11名)、一般経過報告がされた後、「当面の闘争方針」などが提起され可決されました。

第33回中央委員会



正しいテーブルマナーをホテルのコース料理でおいしく学びませんか?

※詳しくは職場ご配布のチラシをご覧ください

参加費: 3,000円

通常9,000円のコースです!!

対象者: 病院組合青年部組合員(2023年4月1日現在30歳未満)

病室組合青年部交流会
テーブルマナー講座
~ANAケアンパホテルケアンコート名古屋~ (金)
日時: 9月20日(水) 19時~21時



精神医療センターは経営面で急に稼働率を上げる努力を病院全体でしております。そのため今までに無いスタッフの疲弊があり、年休がとれないどころか昼の休憩すらとれない、またとれなかった休憩時間に時間外勤務手当は出るのかなどの混乱がおきています。業務改善などの取り組みをして、業績を上げながら、みんなが疲弊しないような体制を整えて行きたいと思っております。



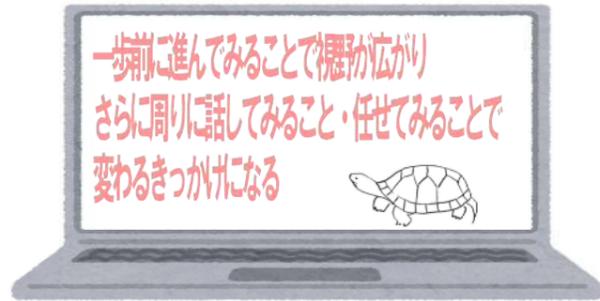
(4面へ続く)



WOMAN EXPO
 Oに参加してきました。
 美容研究家の小林照子さんと公文教室を開設されている村越由香さんのお話「楽しみながら自分を磨き続けるキャリアの築き方」では、自分がなりたい夢を持ち・人に伝え・語る事は大切であるとおっしゃっていました。お話を聞いて、私自身日々の仕事に追われていた時に描いていた夢を忘れてしまっていたと思いました。

楽しみながら
 自分を磨き続ける

自分自身のキャリア構築を再度見直すきっかけになったと思います。また、問題を抱えている・現状に満足していないのであれば、まず一歩前に進んで見ること視野が広がり、さらに周りに話してみよう・任せてみることで変わるきっかけになる。そのプロセスを楽しむ事が大切であると言われていました。



次に脳科学者の中野信子さんの「エレガントな毒の吐き方」では、京都市人（あえてハッキリ言わない）が戦略的とならないことが戦略的とならないことを賢く伝えていられるとされています。相手にジワジワ気づかせる・考えさせる話し方・言葉使いをすることで関係性は保たれるが、意図は伝わっていないことが賢い伝え方であり、難しいと感じました。しかし京都弁の話し方は無理でも、相手にジワジワ気づいてもらう話し方がどんなものか考えてみる事は大切なので取り入れていこうと思います。
 (参加者 Bさん)

仕事と家庭の両立方法

- ・ 家族の予定の可視化、共有
- ・ 先進的フレキシブルワークの推進
- ・ リモートワーク環境の推進
- ・ 短日・短時間勤務制度で週3日、20時間以上から正社員として勤務可能とする働きかたの導入
- ・ 育休から復職する社員に対してキャリア志向や働きかたを整理

ピンチを切り抜ける時に役立つスキル

- ・ 1日ではなく、3日で自分の成果をみる
- ・ 職場では自社・他社問わずサブリミナル（継続してメッセージを伝える）報告
- ・ ミスコミュニケーションの原因は常に自分（相手を責めず、どういう方法が良いか一緒に話せると目線が合う）
- ・ ホワイトボード、付箋の活用（スケジュールを可視化）



仕事も育児も
 自分らしく
 輝く秘訣

WOMAN EXPO 2023では多様な世界で活躍している女性を中心に各々にキャリアを積んでこられた中で、仕事と家庭の両立方法の具体例

をあげて発表されました。その中でも特に印象に残った発表は大手コンサルティング会社のアクセンチュアの社員の方々の発表でした。（左図参照）
 2020年から全世界に広がったコロナウイルスは私達の在り方、働き方を変え、在宅ワーク、フレキシブルな働

き方を受け入れざるを得なくなりました。WOMAN EXPO 2023の参加は行動制限も緩和され、ポストコロナの社会においてどうあるべきかを考える良い機会となりました。この具体例が医療の現場でも活かされることを期待します。
 (参加者 Cさん)



WOMAN EXPO 2023 part. 1

2023年6月10日、渋谷ヒカリエにて、女性活躍推進を後押しする取り組み「日経ウーマノミクス・プロジェクト」の一環である「WOMAN EXPO 2023」が開催され、参加者からレポートが届きました。

エレガントな
 毒の吐き方？

6月上旬、渋谷ヒカリエで開催された、日経ウーマンエキスポに参加してきました。

セミナーでは、普段は聞けない他業種の方の貴重なお話を聞くことができ、Woman Excellent Awardを受賞された篠原ともえさんの受賞式では、一世を風靡したシノラーを懐かしく思いつつ、見た目の美しさだけでなく、前向きに好きなことに取り組み姿勢がとても素敵で、思わずため息がこぼれました。

さて、「中野信子さんと考える京都市人が学ぶエレガントな毒の吐



き方」というセミナーでは脳科学者の中野先生のお話を伺いました。昨今「論破」という言葉をよく聞きます。相手を論破してそのときはスカッとしても相手との関係性が悪くなってしまうことがある。相手にダメージを与えても人間関係は終わりにならず続くもの。それならば人間関係を良好に保ちながらチクリと相手に毒を吐ける方法があればいいよね、という観点の話でした。京都市人とタイトルがありますが、中野さんは東京の方。つつい本音で意見を言ってしまう、人間関係が悪くなることがあり、京都の方の話し方に学べないか、という発想で本を書かれたそうです。

き方」というセミナーでは脳科学者の中野先生のお話を伺いました。昨今「論破」という言葉をよく聞きます。相手を論破してそのときはスカッとしても相手との関係性が悪くなってしまうことがある。相手にダメージを与えても人間関係は終わりにならず続くもの。それならば人間関係を良好に保ちながらチクリと相手に毒を吐ける方法があればいいよね、という観点の話でした。京都市人とタイトルがありますが、中野さんは東京の方。つつい本音で意見を言ってしまう、人間関係が悪くなることがあり、京都の方の話し方に学べないか、という発想で本を書かれたそうです。

1つ例題が紹介されました。みなさんならどれを選びますか？



Q 場違いに派手なファッションとメイクの女性。どう指摘する？

- 1 ちよつと派手すぎませんか。
- 2 いつもきれいにしていますね。
- 3 おフランスから帰ってきたはったんか。



ひっかけのように京都弁が混ざっています。京都市人的には2が正解とのこと。そのままずばり言って角を立たせるのではなく、少し違和感のある印象を残して、後から考えさせられるように返すのがおすすめです。

キーワードは「京都」「戦略的あいまい性」「互恵関係」。

印象に残ったのは、学生時代は正解を出すことが良しとされていたのに、社会に出たら白黒はつきり付けないであいまいに濁す能力が求められたり、そういう能力を持っている人が案外うまくいったりするという話でした。こんな本を出しながら、人間関係にこれをしてあげようという話ではないかという方が中野先生のまとめでした。1つのパターンで済むことなら

ば脳の仕事にはならない。複雑で常に考えなければならぬからこそ脳を働かせる意味があるとのこと。
 京都市人に知り合いはいないので、ほんとに京都人がこんなふうにならずに、相手の間違った指摘を正しく伝えることも、伝え方ひとつでうまくいくこともないかなということもあります。これから脳を一生懸命働かせて工夫しつつ、人間関係が少しでもうまくいくといいなあと思ったのでした。
 (参加者 Aさん)

